

数の人がぞろぞろ歩く状態になる。上高地の歩きやすさに比べ、すぐそばの3km級の山々の登山は厳しい。穂高、槍ヶ岳の遭難者は5年で35人にものぼる。

3. 梓川

北アルプス槍ヶ岳に源を発し南流。上高地で大正池を形成し、梓湖（奈川渡ダム）に注ぐ。東に向きを変え東筑摩郡波田町に入ったところから河岸段丘をつくり、松本市大字島内で奈良井川を合わせ犀川と名を変える。延長は65km。大正池のところで流域面積は約百平方キロ。流出が一日1mmとすると、流量は毎秒1トン程度となる。

梓川の水は蒼く非常に美しい。写真にもきれいさが撮れる。大体水の流れるは青空で天気の良い時はきれいに撮れるが、曇りや雨の時はなかなか難しい。ところが梓川は天気が悪くても水の色が輝くように写っていて、こういう経験ははじめてであった。このきれいさは世界一でないかと思う。ただ雨が降るとすぐ土砂が入ってきて濁ってしまうようである。

清浄な上高地の梓川の水質であるが、「上高地における地形変化と食性動態に関する流域生態学的研究 上高地自然史研究会 2001年7月」で調べられている。Caイオンが5~10mg/L程度、炭酸イオンが15~30mg/L程度、ケイ酸が5~10mg/L程度、硫酸イオンが2~10mg/L程度である。一方、硝酸性窒素、リンなどはごく微量であった。カルシウムが高濃度の水は青く見えるが、石灰岩地域のようにカルシウム濃度が高いというものでもない。透明度が高いので水中で青い光が残ると、白いプールで水の青が強く見えるように、梓川の河床が新鮮な砂や礫の供給により常に白く保持されていることが青く輝く水の色につながっているのだろうか。



写真ー2 梓川 河童橋と田代橋の間のこと
ー浅く流れる本流の向こうの川原にケシヨウヤナギの林ー

大腸菌群数も調べられている。環境基準ではA Aランクで50MPN/100mL, Aランクで1000MPN/100mLとなっている。上高地では人為汚染がないと考えられる源流などは10程度以下であった。本流では20~80程度であったが、秋期調査で下水道が行っていない宿泊施設がある明神橋のところで16000という値が出た。また下流、田代橋のところで5400を示した。ここは公共下水道区域であり、下水道に入らない温泉排水による可能性が考えられた。

最近掛け流し温泉がいい温泉の条件と化しているがこういう温泉では、掛け流しのお湯は量が多すぎてとても処理ができず、処理される洗いの場の排水と分けて直接川などに排水される。しかしどうしても人の汚れや石けんは入るのだから、掛け流し温泉は環境を考えると望ましくないものである。

なにごとにもつましくすることが大事である。

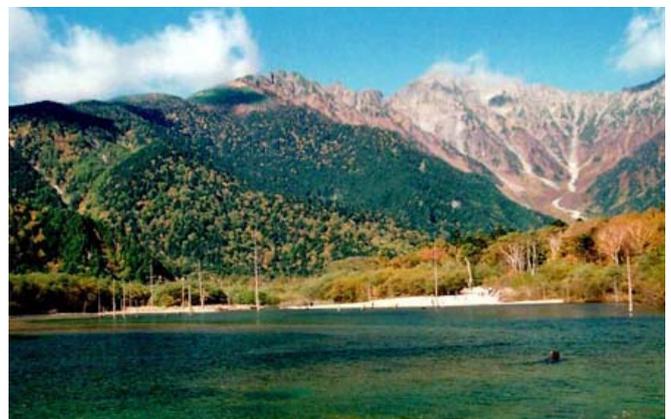
4. 大正池

上高地の入り口に位置し、いい景色が展開する。

焼岳が噴火して流出物が梓川をせき止めてきた池で、幻想的な立ち枯れの木は、水没した木が枯れて幹だけ残ったもの。風情があって、カレンダーなど多数の写真が撮影されている。

ただ、この枯れ木も年月が経って倒れるなど数が減ってきている。

焼岳の大爆発は大正4年6月6日。これによる膨大な土砂流により、急スピードで梓川がせき止められた。短時間のうちに川の水は上高地温泉まで達した。大正池の下端で高さ80mくらい噴出物が堆積し堰上げしてようである。その後、上流からの土砂の供給により、昔は長さ1.5km、幅0.3km程度あったのが、今では長さ



写真ー3 大正池 ー風情のある立ち枯れた木々は少しずつ減っている。池も次第に小さくー



図-2 大正池のできる前の梓川
大正1年測量国土地理院旧版地図

1 km, 幅0.2km程度に小さくなってきている。

晴れた日には焼岳や穂高連峰を美しく映し、透き通った水でマガモが遊ぶ穏やかな表情を見せる。池への注ぎ口は浅い広い流れになって波の波紋が美しい。

大正池は、上流から流入する土砂が池底に堆積しているため、年々浅くなってきている。現在は上高地の観光資源であると同時に、下流に建設された東京電力の水力発電所の調整池としても利用されていることから、堆積した土砂の浚渫作業が行われている。

5. 上高地の地形

上高地の標高は1500mから1600mくらいで、梓川沿いに幅5百メートルくらいの割に広いなだらかな平地が続く、長さは大正池から上流に約10km。人出の多い大正池北端から河童橋までの距離2 kmの何倍もある。おかげでアップダウンのない優しいハイキング道となり楽に散策できるが、周辺の急峻な高山や大正池下流の傾斜のきつい谷からすると変である。幸い国土地理



写真-4 温泉ホテル

—左が明治からある上高地温泉ホテル、右は清水屋ホテル—

院の旧版地図で噴火の前の大正元年の測地のものがあった。それによると上高地温泉ホテル上流はやはりなだらかな地形であった。どうも過去から焼岳の噴出物が、流れを堰上げしてきたため上流が穏やかな地形に保たれているようである。

浸食によって谷はどんどん削られていくが、横から土砂が供給されるとダムのように上流の谷の浸食が止まり堆積する。

大正池は土砂堆積によって次第に小さくなっているが、湖内の土砂浚渫によって周囲の標高は高くなっていない。むしろ下がり気味である。

一方明神地域では河床の上昇があり、対策工事が行われている。この河道工事が自然を破壊するという反対論もある。

周辺は急峻な山岳なので大雨の度に土砂が流出する。これによって歩道がたびたび損傷したり梓川の流れが影響を受ける。新鮮な土砂の供給により、氾濫原にすぐ生える上高地名物のケシヨウヤナギなどにはいいのであるが、道路や橋、建物の損壊は防がなければならない。上高地流域は国立公園で、農地などが無い。明治の頃、地元島々の人が許可を得て夏の間だけ、松本周辺で集めた牛や馬を、徳本峠を超えて、上高地で放牧を始めている。いわゆる上高地牧場の始まりで、場所は、小梨平、明神、徳沢の3箇所であった。その後国立公園になって牧場はなくなった。保全すべき農地がないので、道路が壊れたらなおすなど、できるだけ自然のままに置いておく方がいいのであるが、こころへの判断が難しいところである。

6. 上高地の見どころ

6.1 河童橋

バス発着場、インフォメーションセンターなど中心部に近い吊り橋。ここからは穂高連峰、登山道途中の岳沢など近くによく見える。岳沢の山小屋は最近の豪雪によって破壊され閉鎖にいたり、周辺の自然の厳しさを示している。

6.2 旅館・ホテル

上高地温泉の営業は1830年にはじまり、明治20年(1887年)には温泉旅館が開業した。以来上高地シリーズの作品の安井曾太郎画伯、小説「河童」の舞台とした芥川龍之介、高村光太郎など多くの文芸家が逗留している。現在上高地温泉ホテルと上高地清水屋ホテルが営業している。

上高地帝国ホテルは1933年(昭和8年)に雄大な穂

高連峰を背景に、日本で初めての本格的な山岳リゾートホテルとして開業した。

6.3 ウェストン碑

清水屋ホテルの少し上流に小さい碑がある。英国宣教師W.ウェストン氏は約100年前に、上高地の山岳風景の美しさを世界に知らしめた。

6.4 田代池

大正池の少し上流の湿地帯にある小さな水辺。だんだん埋まってきているようである。湿地帯の中にあり、奥に入れない。3月末、閉鎖されている上高地のトレッキングツアーがあり、参加した。上高地入り口から釜トンネルを徒歩で上がっていくもの。天気予報ではいい天気だったのに現地に行ったら季節外れの大雪であった。冬は雪で覆われているので、田代池の奥の平らな湿地帯もスノーシューで歩くことができた。冬でも週末には数百人のハイカーが入っているようで、そ



写真-5 田代池

ー霞沢岳からの水が流れてくるー

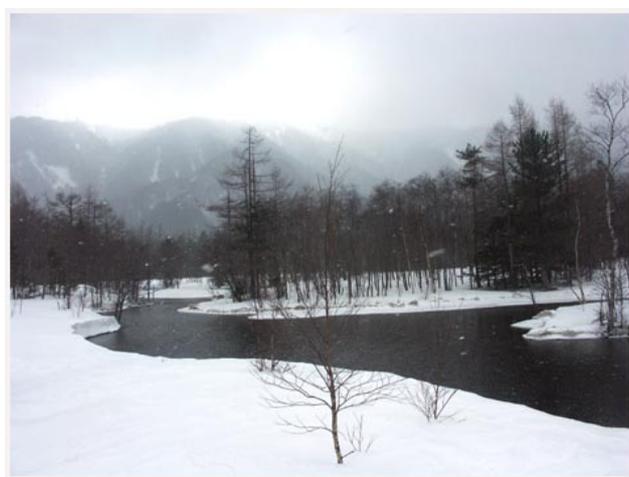


写真-6 田代池東側

ー広い湿原になっている。シーズン中にはここに入れないー

のうち冬型の体制ができるかもしれない。

6.5 田代橋

温泉旅館の近くにあり、梓川の流れを見るのに一番いい場所である。

6.6 明神池

河童橋上流2kmちょっとのところにある。梓川の古い流路が明神岳からの崩落砂礫によってせきとめられてできた池で、明神岳からの伏流水が常に湧き出ているため透明度が高い。明神岳、深い森、池を囲む熊笹、湖面に点在する岩など、日本庭園の様子を示す。

7. 上高地の下水道

シーズンの時には遊歩道に人の流れが絶えないほどになる。当然排水処理が必要になり、昭和63年に下水道事業が開始され、平成4年に下水処理がはじまった。ピーク時には一日1400トンの下水を処理している。これは数千人の街に匹敵する。処理対象区域は河童橋周辺や、田代橋周辺のホテル群、公共施設などである。上流の徳沢地区、明神橋周辺など下水道が入っていない地域は課題が残っている。

8. 終わりに

秋の晴れた日に出かけた時、景色は良かったのに一日中ヘリコプターの騒音がうるさかった。山小屋へ物資を運ぶものらしい。上高地内は道路で物資を運べるが北アルプスの山小屋へは昔は山男が運んだが今ではヘリコプターが主役になっている。自然の保存が重要視されている尾瀬では、宿泊施設の物資輸送だけでなく、廃棄物輸送、木道の修理にもヘリコプターが不可欠となっていて変な気がする。どのみち文明の力を借りなければならぬことを考えると、物資運搬だけの隠れた道路をつくるなどした方がいいのでないだろうか。極端な自然保護は場合によると考える。

梓川は幸い下水道の建設がやっと認められ、人出のピークでも水質が保全されている。大勢の人が押し寄せる自然公園地域では、下水道、屎尿処理施設など大量の負荷を効率的に処理できる施設が必要となる。

また小さな木があるだけで見晴らしのいい眺めが損なわれているところなどで、その木を少し切るなど庭園としての要素も入れてほしいものである。

上高地の梓川がいつまでも清流を保ち、景色を楽しめる存在であることを願うものである。